

3 パセリのうどんこ病対策検討試験

背景と目的

旭川市は道内におけるパセリの主要産地ですが、うどんこ病対策が大きな課題となっています。このため、同病に強いとされる品種と基幹品種との比較試験を行うほか、同病に効果が期待される新規薬剤の効果確認試験を行いました。

(関係先) 旭川青果物生産出荷協議会パセリ部会

試験方法

(1) 供試品種 (品種比較試験)

品種名	販売元	特記事項
グラント	カネコ種苗	基幹品種
エンリッチ	ツルタのタネ	うどんこ病に強いとされる品種

(2) 供試薬剤 (新規薬剤効果確認試験)

薬剤名	成分名	剤の種類	使用回数	使用期限
クリーンカップ	水酸化第二銅 バチルス スズバチス	予防剤	—	収穫前日まで
アフエットフロアブル	ペンチオピラト	予防剤	2	収穫3日前まで

※上記薬剤の試験区のほか、慣行区 (慣行薬剤) 及び無処理区 (無防除) を設定

(3) 耕種概要

- ・播種日： 3月10日
- ・定植日： 5月15日
- ・栽植密度： 株間25cm×条間25cm, 5条千鳥植え, 8,000株/10a
- ・収穫方法： 7月6日から収穫開始。収穫間隔は1週間に1回。
1株当たり9葉を残して収穫。

(4) 試験内容

試験区分	主な調査内容	評価手法	その他条件
品種比較試験	供試品種におけるうどんこ病の発生程度等の比較検討	初発日 発病度等	防除方法: 慣行薬剤 (インプレッションクリア及びサンクリスタル乳剤) で週1回防除
新規薬剤効果確認試験	供試薬剤のうどんこ病に対する防除効果の比較検討	初発日 発病度等	使用品種: グラント 防除方法: クリーンカップ (週1回) アフエットフロアブル (栽培期間中2回 (8/25, 9/10))

※発病度：収穫葉を1枚ずつ観察し、発病の程度を5段階 (①発病なし ②病斑数個 ③発病面積が葉の1/4未満 ④発病面積が葉の1/4以上～1/2未満 ⑤発病面積が葉の1/2以上) に調査・分類し数値化したもの。

※発病度が低いほど、うどんこ病にかかりにくい、又は、防除効果が高いことを示す。

試験結果及び考察

(1) 品種比較試験

グランド区とエンリッチ区のうどんこ病の初発日は、同じ8月21日でした。また、両試験区の発病度の推移は、9月に入って徐々に上がり始め、9月中旬には、エンリッチがグランドを上回りましたが、調査最終日（9月30日）には、ほぼ同程度になりました。

このため、両品種のうどんこ病に対する強さは、同程度と考えられました。

(2) 新規薬剤効果確認試験

アフェットフロアブル区は、2回の薬剤散布を行いました。調査最終日（9月30日）の発病度の比較では、最も低く抑えられたことから、アフェットフロアブルは、供試薬剤の中で予防効果がより高い薬剤と考えられました。

クリーンカップ区は、うどんこ病の初発日が最も遅い9月7日でした（表1）。また、発病度の比較では、クリーンカップは、いずれの調査日においても、同剤と同じく使用回数制限のない慣行薬剤よりも低く抑えられたことから、慣行薬剤よりも予防効果が高い薬剤と考えられました。

まとめ

(1) 品種比較試験

グランド及びエンリッチにおけるうどんこ病の発生程度の比較から、両品種のうどんこ病に対する強さは、同程度と考えられました。

なお、この試験では、慣行薬剤の散布による薬害・汚れは見られませんでした。

(2) 新規薬剤効果確認試験

新規薬剤については、回数制限のないクリーンカップを定期的に散布し、拡大が懸念される時期等に、回数制限のあるアフェットフロアブルを散布するといった状況に応じた使い分けが有効と考えられました。

なお、この試験では、アフェットフロアブル及びクリーンカップの薬剤散布による薬害・汚れは見られませんでした。

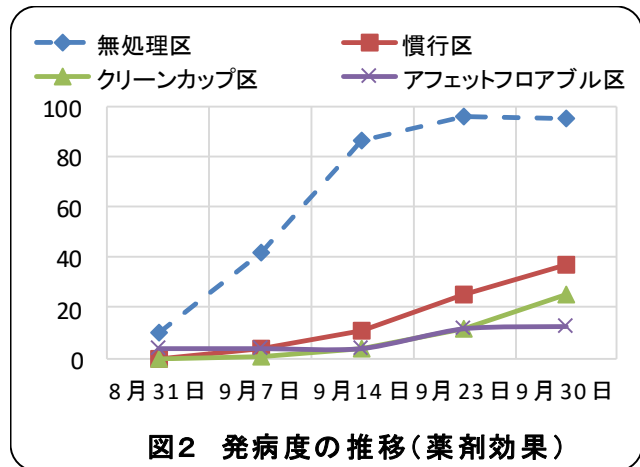
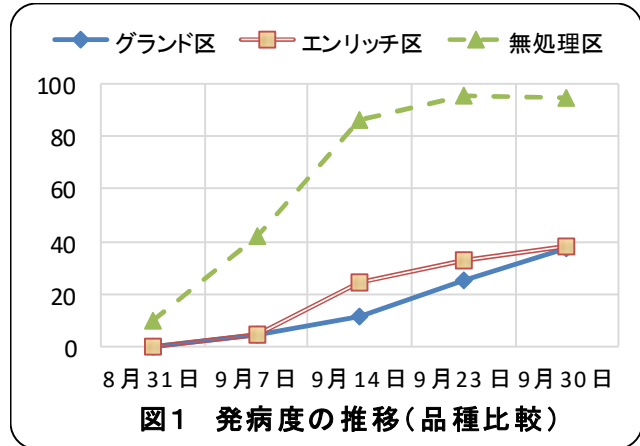


表1 うどんこ病の初発日(薬剤効果)

試験区	初発日
慣行区	8月21日
クリーンカップ区	9月7日
アフェットフロアブル区	8月19日
無処理区	8月19日